

ネパール地震で義援金

平成27年4月にネパールで発生した大地震で、城西グループから相馬廣明名誉院長を通し、現地に義援金を贈りました。8月13日、現地のネパール産婦人科医会から相馬名誉院長に礼状が届きました。

ネパール地震は、4月25日午前11時56分、首都カトマンズ北西77^{km}付近、深さ15^{km}を震源としたマグニチュード7.8の規模で、余震も含め約8700人が死亡、2万人を超える人が負傷。49万戸の家屋が全壊、27万戸が半壊するなど、大きな被害をもたらしました。

この大地震に、ネパールと深い縁のある相馬名誉院長を通し、現地に義援金を贈ろうと、城西グループ全体で募金活動を行いました。相馬名誉院長は「大変な災害が起きた。カトマンズの知り合いに連絡をしたら、大丈夫

という返事でした。どうしたら被災者を助けることができるのかと考え、義援金を贈ることにしました」と振り返ります。

相馬名誉院長とネパールのかかわりは、1979年から。アメリカのダートマス大学で胎盤の研究を

していた相馬名誉院長は、アンデスの高地では赤ちゃんが小さく、妊婦の胎盤は大きいという研究論文に疑問を持ち、「アジア人なら、ヒマラヤで研究したい」という思いを抱いてネパール入りしました。「ネパールは、戦争のない国で赤ちゃんの死亡率が一番高かった。唯一の国立の医学部ができたばかりで、産婦人科も20人しかいなかった」と振り返ります。

それまで国外での医師養成に頼っていたネパール政府は、相馬名誉院長に国立大学医学部で教授として講義してほしいと依頼。医師育成や現地での診療も行い、「ネパールの産婦人科の父」とも呼ばれ、ネパール国王から勲章も授与されるなど、深いつながりを持ち続けてきました。

「今回の地震で、実際に困っている人たちに援助したい。家が倒壊し、困っている人たちも助けたい。確実に義援金を届けたい」と相馬名誉院長は、自ら設立に関わったネパール産婦人科医会に義援金7,731^{ドル}、日本円で約97万円を送金しました。

相馬名誉院長は「困っている妊婦や子供たちを助けるため、義援金を活用してほしい」と話していました。

平成27年8月20日



ネパールから相馬廣明名誉院長に礼状

相馬廣明先生

お送りいただいた義援金USD7,731.34を、確かに受け取りました。

この義援金は、被災者の救済事業に使わせていただき、進行の状況を逐次ご連絡いたします。

ネパール産婦人科医会は、義援金を提供して下さった城西グループの皆様と、

相馬先生に、心からの感謝を申し上げます。

ご支援に対し、重ねて感謝いたします。

ラタ・バイラチャリヤ

ネパール産婦人科医会 会長

This is to kindly acknowledge that we have received the amount of USD7,731.34 by you. The donation will be used for relief programs. We will send you all the progress and updates soon. NESOG would like to express its heartfelt thanks to all the staff of Josai Group (Yuki City, Ibaraki) and Prof Soma. Thank you for your kind support

With Regards

Dr Lata Bajracharya,

President, Nepal Society of Obstetricians and Gynaecologists (NESOG)